

# 那覇空港自動車道 豊見城東道路開通の効果

- 10,000台/日以上が開通区間を利用！
- 並行する路線では朝夕混雑時間帯の交通量が減少！
- 空港⇄最寄りICの所要時間が約15分短縮！
- IC周辺の混雑緩和に寄与！
- 新設IC周辺では混雑の顕著な悪化は見られず！  
『外郭環状道路』としての機能が発現！

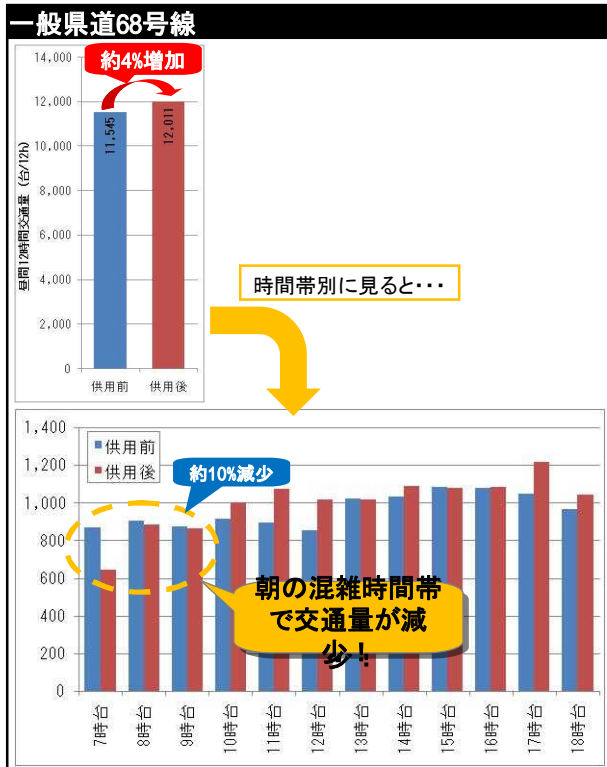
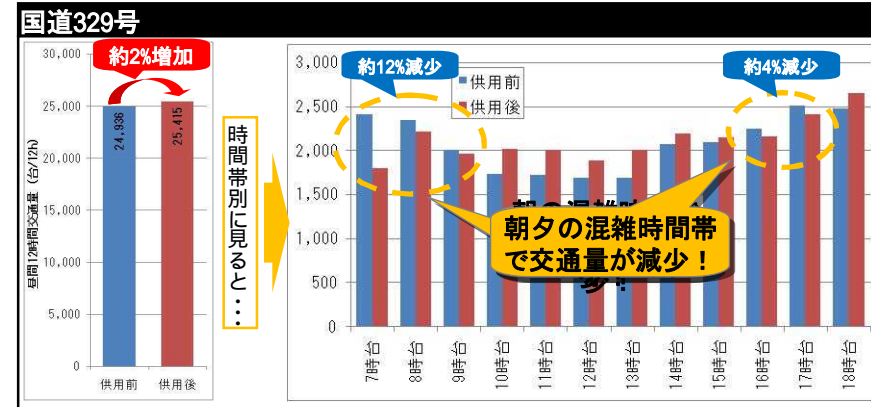
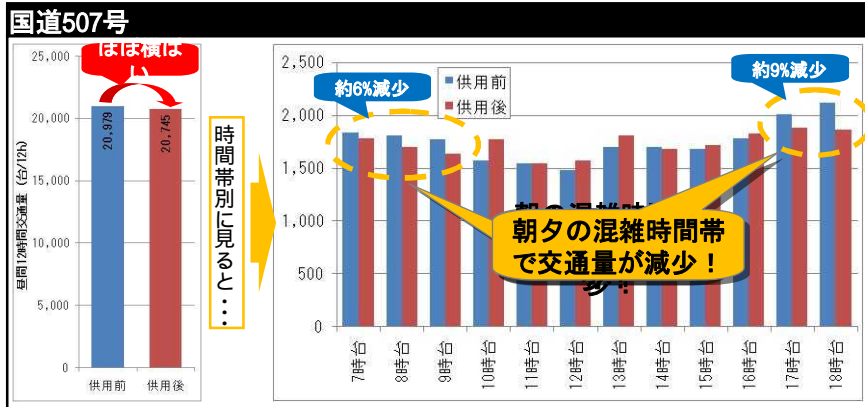
# 10,000台/日以上が開通区間を利用！

- 開通区間の利用交通量は平日・休日とも10,000台/日以上となった。
- また、H15年度開通済み区間(豊見城IC～南風原南IC)でも、供用にともない3割以上の大幅な利用交通量増加が見られている。



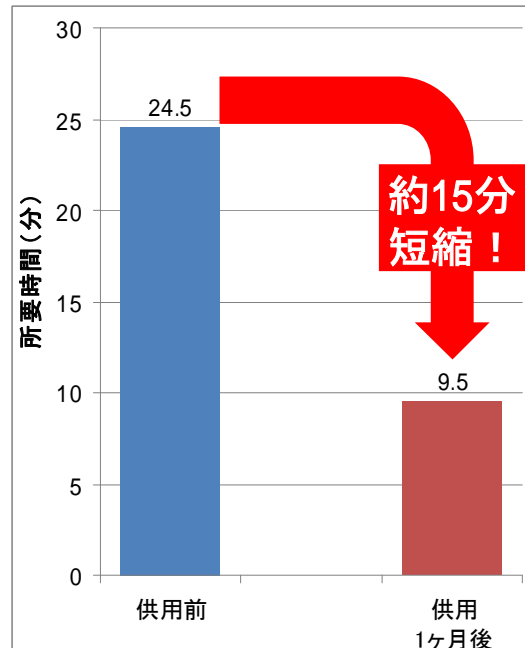
# 並行する路線で混雑時間帯の交通量が減少！

- 供用直後が春の観光シーズンにあっていたこともあり、並行する路線の交通量は供用前に比べて横ばい～増加傾向となっているが、時間帯別に見ると朝夕混雑時間帯の交通量は減少傾向となっており、特に朝の時間帯では顕著な減少が見られる。



# 空港⇄最寄りICの所要時間が約15分短縮！

- 新たに豊見城・名嘉地ICが設置されたことで、那覇空港⇄高速道路最寄りIC間の走行距離が約9kmから約6kmとなり、所要時間が開通前:約25分から約10分に、約15分短縮した。
- また、那覇空港⇄高速道路最寄りIC間が全線4車線道路となり、走行性や定時性、分かりやすさの向上なども期待される。



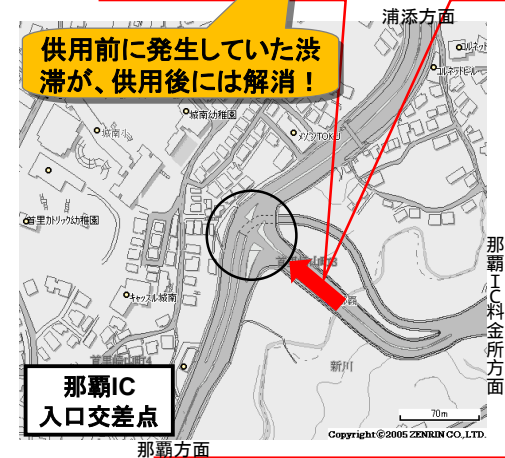
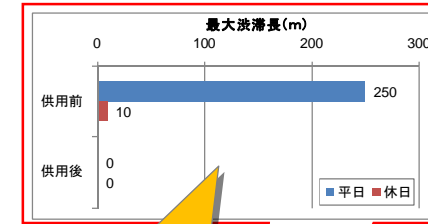
平日7時台のIC⇄空港間の実測値(供用直後については一部補正を実施)  
供用前:H20.1.17(木)  
供用1ヶ月後:H20.4.17(木)





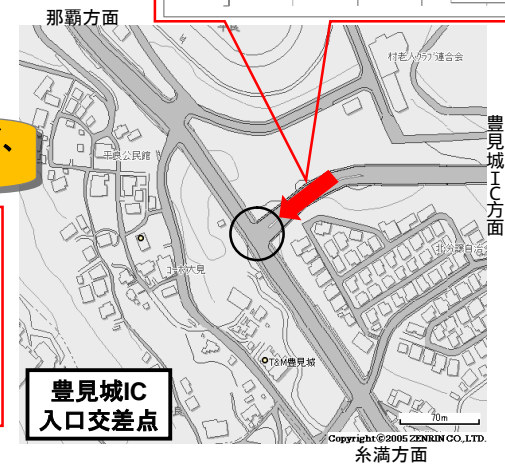
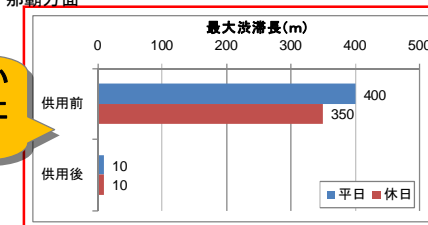
# IC周辺の混雑緩和に寄与！

- 供用にともない、供用前には顕著な渋滞が発生していた那覇IC入口交差点や豊見城IC入口交差点などで、渋滞が大幅に緩和・解消された。

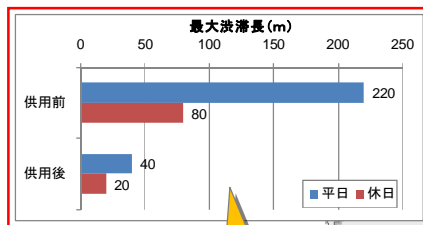
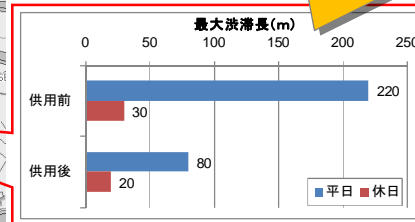


供用前に発生していた渋滞が、供用後には解消！

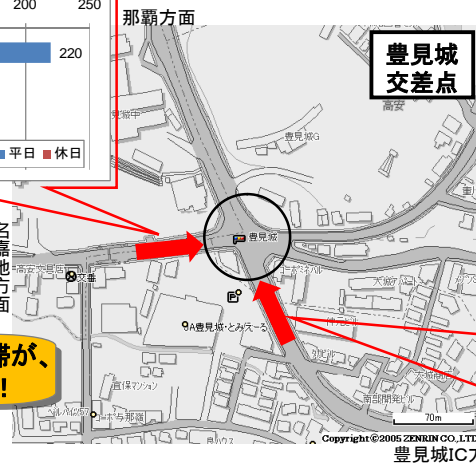
供用前に発生していた渋滞が、供用後には大幅に緩和！



供用前に発生していた渋滞が、供用後には大幅に緩和！



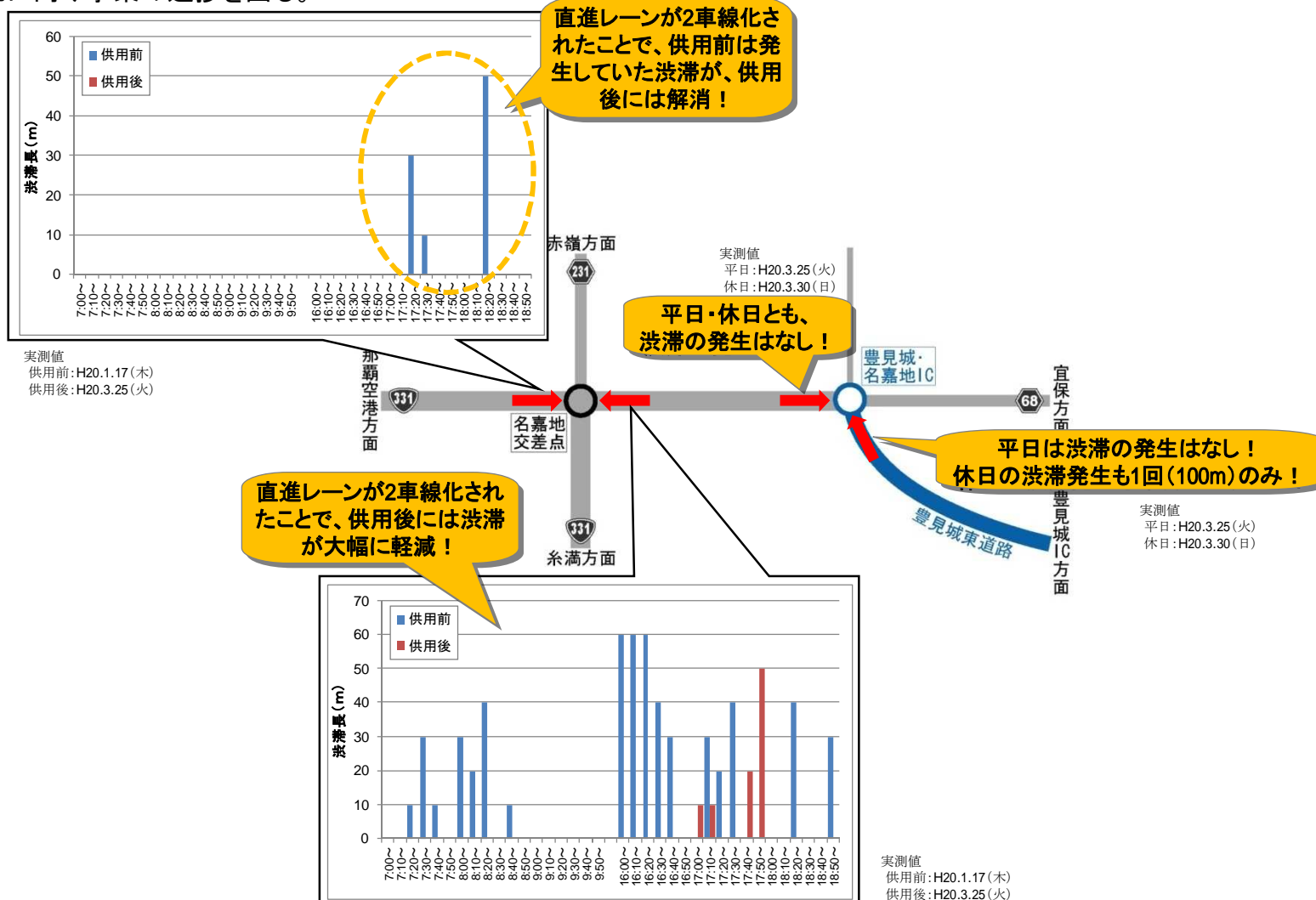
供用前に発生していた渋滞が、供用後には大幅に緩和！



データはいずれも実測値  
 供用前平日：H20.1.17(木)  
 供用前休日：H20.1.20(日)  
 供用後平日：H20.3.25(火)  
 供用後休日：H20.3.30(日)

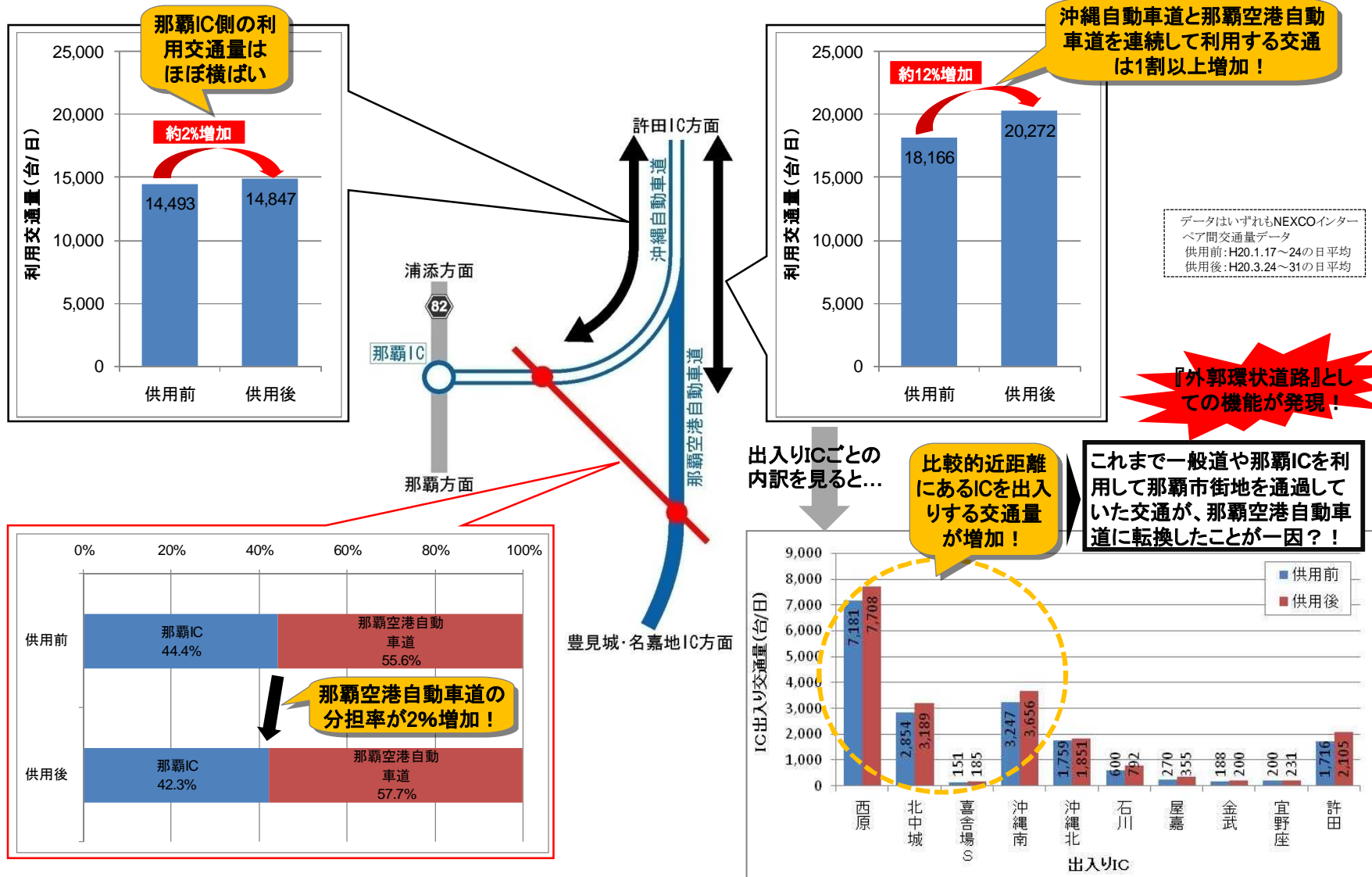
# 新設IC周辺では混雑の顕著な悪化は見られず！

- 新設された豊見城・名嘉地IC周辺では、交通量増加にともなう混雑悪化が懸念された。
- 豊見城・名嘉地ICでは、IC出口側流入部で休日の17時台に1回(100m)のみ渋滞が発生したものの、休日のその他の時間帯や平日では渋滞発生は見られなかった。
- また、名嘉地交差点については、供用にともない那覇空港側流入部、豊見城・名嘉地IC側流入部とも直進レーンが1車線から2車線に増加したこともあり、供用前に比べて渋滞が緩和されたが、まだ、夕方に渋滞が見受けられることから、引き続き交差点の立体化に向け事業の進捗を図る。



# 『外郭環状道路』としての機能が発現！

- 沖縄自動車道と那覇空港自動車道を連続して利用する交通が1割以上増加し、那覇空港自動車道の分担率が2%増加した。
- 増加した交通の出入りIC内訳を見ると、西原ICなど比較的近距离での増加が目立ち、これまでは一般道や那覇ICを利用して那覇市街地を通過していた交通が、那覇空港自動車道に転換したことが一因であると考えられ、那覇空港自動車道が那覇市街地を迂回する『外郭環状道路』として利用されていることが推察される。(『外郭環状道路』については次ページ参照)



# (参考)『外郭環状道路について』

- 豊見城東道路は、那覇都市圏の『2環状7放射道路』のうち、「外郭環状道路」を構成する路線になっている。
- 今回の開通により、国道331号豊見城名嘉地交差点～国道58号宜野湾市宇地泊までの区間で「外郭環状道路」が形成された。
- これにより自動車交通が分散化され、混雑や渋滞の緩和が期待される。

